



図書館だより



2024年
12月20日発行

秋草学園高等学校 図書館

今年も残りわずかとなりました。2024年はみなさんにとってどんな年だったでしょうか。この1年の自分を総括し、新年に取り組みたいことや目標などを思い描くことは、新しい一歩を踏み出す助けになりますよね。ぜひ、なりたい自分の姿をイメージしてください。みなさんの活動の助けになるよう、図書館も資料収集や展示等で応援していきます。今、図書館ではクリスマスや新年におすすめの本や百人一首大会に向けた本の展示をしています。ぜひ手に取っててください。みなさんの興味あることや取り組みたいことについて、気軽に図書館に来て聞かせてくださいね。

2025 箱根駅伝がもうすぐ

今冬もやってまいりました、第101回東京箱根間往復大学駅伝競走の時期です！皆さんが応援している大学はありますか？ご家族の出身だったり、志望校だったり、はたまた次の4月に入学予定の大学が頑張っているよ！という方もいらっしゃるかもしれませんね。現地に応援に行く方は早いうちから宿を押さえるそうです。応援している大学が出場できることを信じて……！

今回はそんな「箱根駅伝」を題材にした本を紹介しましょう。

913.6-1 『俺たちの箱根駅伝（上・下）』

池井戸 潤 || 著 文藝春秋



半沢直樹シリーズ等でお馴染みの著者による、学生連合チームにフィーチャーした箱根駅伝小説。実在の大学名や本当のエピソードがでてきますが、フィクションです。惜しくも予選敗退となった明誠学院大学でしたが、4年生の青葉隼斗が学生連合チームに選ばれます。

782-2 『箱根駅伝「今昔物語」』

日本テレビ放送網株式会社 || 編 文藝春秋



1920年から始まった箱根駅伝。日本テレビの中継開始時の1987年から、中継途中に「箱根駅伝今昔物語」という、過去の大会のエピソードを紹介するコーナーがあります。その中から、80エピソードがこの本の中で紹介されています。

S782-1 『箱根駅伝に魅せられて』

生島 淳 || 著 KADOKAWA



箱根駅伝のスター選手や名監督等の魅力や取材内容を記した一冊です。東洋大学のほとんどの選手は、寮のある川越キャンパス（鶴ヶ島）から、授業は白山キャンパス（文京区）まで通っていた……という東上線での通学の大変さが安々と想像できるエピソードも。

2024 これを読まなきゃ終われない！

今年のノーベル平和賞は日本被団協が、文学賞はアジア女性初、韓国のハン・ガンさんが受賞しました。

726-ナ 『はだしのゲン』

中沢 啓治 || 著 汐文社



何度読み返しても、戦争の悲惨さに慄きます。落とされた原子爆弾により被爆したゲンは、生き残った母を支え、生き抜きます。被害者なのに疎外され口を閉ざすしかない人々。社会の圧力は、敵の攻撃以上に心を傷つけます。

929.1-ハ 『肉食主義者』

ハン・ガン || 著 クオン



暴力は多様な形をとります。「肉を食べない」というヨンへに父は「お前のためなんだ」と、肉を顔に押しつけ殴ります。夫はそれを愛情ととらえます。そもそも、なぜ肉を食べなくなったのか、お腹の中からこみ上げるものの正体とは。

新着コーナーの気になる本

019-1 『積ん読の本』

石井 千湖 || 著 主婦と生活社



本を買って読まずに積むように置いておくこと、「ツンドク」、聞いたところはありますか？なんと100年以上前の辞書にもその言葉が載っており、意味も同じ。そんな積読家たちのインタビュー集です。

913.6-マ 『勿忘草をさがして』

真紀 涼介 || 著 東京創元社



高校生の航大は、以前偶然会ったお婆さんを探していた。手がかりは庭に沈丁花が咲いていたこと。探し回るうちに、老女菊子と、その孫の拓海に出会い、拓海の心当たりの家を訪ねてみることに。ほろりとする、植物がキーワードの連作ミステリーです。

司書の今月はこの本読みました



『屍人荘の殺人』の著者による『でいすべる』（913.6-1 今村昌弘 文藝春秋）が、とてもおもしろかったので紹介します！オカルト好きな小学6年生の「ユースケ」は、同じ掲示係の「サツキ」、「ミナ」と町の七不思議について調べ、学級新聞の記事にすることにします。その七不思議というのは、サツキの従姉の「マリ姉」が、亡くなる直前にPCに残した怪談でした。七不思議は本物のオカルト的なものなのか？それとも論理的に解明できるのか？マリ姉の死の真相は？メタフィクショナルな要素もあってミステリー好きの心を刺激します。【吉村】